

# 12月議会・一般質問で市長の政治姿勢を ただし、積極的に提案しました

## ゴミ問題について 新市長を追及



吉岡和江議員

鎌倉市は市民の協力で四年連続「リサイクル率全国一」になりました。しかし、二カ所の焼却施設は老朽化しており、早期の対策が必要なことから、生ごみの分別・資源化を行い、焼却ゴミを減らすことは最重要課題です。

## いま何故バイオガス化なのか

鎌倉市はコンポストや電動生ごみ処理機などの普及で堆肥化による資源化を進めてきましたが、都市部では堆肥の活用が難しいのが実態です。そうしたことから、一昨年三月の審議会答申で「バイオガス化が鎌倉市の生ごみ資源化の方式と

して有効である」と結論に至り、以降、市の方針になりました。

## バイオガスってなに？

バイオガスは動物や生物から生まれた再生できる資源です。太陽エネルギーを使って合成したもので、生命と太陽がある限り枯渇しない地球環境にも優しい資源です。バイオガスは生ゴミなど(有機物)自然界に存在するメタン菌(地中や池の泥などに存在する嫌気性微生物)によって、生ゴミをメタンガス等(メタン発酵)に変えることで、石油資源の代替



京都市の生ごみバイオガス化施設視察

## 焼却施設の延命化 対策まったなし

鎌倉市と逗子市は共用する焼却施設の検討を行ってきましたが、逗子市は独自で焼却施設延命化工事を行うと発表し、鎌倉市は独自で対応せざるをえません。審議会は昨年十月「名越クリーンセンター」焼却施設を改修し延命化することが最も適切である」と提言しましたが、山崎浄化センター敷地にバイオガス施設を建設し、生ゴミを資源化することが前提条件です。

吉岡議員は、審議会の答申・提言を尊重し、バイオガス化施設の建設準備をすすめるよう強く求めました。

市長は「山崎バイオガス施設の見直し」を言いながら対案は示せず、議場は騒然となりました。市長の責任ある判断を求めて今後も市民的立場で追及していきます。

## 経済情勢を反映した 市民生活への支援を

吉岡議員は、不況の影響が深刻な中、中小業者や市民生活への支援を市長に質しました。市民や中小業者の営業や厳しい生活状況について、保育園待機児や就学援助金の申請増、失業者増加、売り上げ減少など厳しい市民生活の実態があることから、市の緊急融資の返済期間や猶予延長を要望しました。

## 保育料や国保料は 据え置きを

国保は中小業者や派遣労働者等が加入しており、滞納者が約二十パーセントもいることから、保険料値上げをしないよう求めました。保育園待機児は十一月で八十九人と深刻であり、公有施設の活用を図り、緊急待機児対策を要望するとともに、学校給食費値下げの検討を求めました。また、政府が「子ども

手当」財源として扶養控除廃止を決めましたが、二十三歳から六十九歳を扶養する家庭は増税だけ押しつけられる問題点を指摘しました。

所得で利用料等が決まることから、扶養控除廃止により、保育料、幼稚園奨励金、障害者福祉サービスなど二十三項目が、値上げやサービスから排除される点を指摘し、市民生活に影響が及ばないよう対応を求めました。

## 岡本二丁目マンション問題 市長の指導力が問われている



高野洋一議員

市長は、第一回口頭弁論前に補助参加取りやめを判断することを表明し、第一回口頭弁論が行われる当日に補助参加を取りやめるに至りました。

## 公共施設管理者の判断

この問題を巡る根本には、市民が利用していた階段状の道路を開発区域に入れることに同意(裁量権を行使)した前市長の判断ミスがあります。

市長には、河川や道路などの公共施設を適切に管理する責務があり、公共施設管理者として市民の目線にたった総合的な判断(裁量)を行うことが求められています。

## 市の補助参加を取り下げ

補助参加の取りやめについて、市長は補助参加から降りることを明言しつつ、その判断時期については、「相手(事業者)もあることなので慎重に検討している」との答弁にとどまったため、十二月十五日の第一回口頭弁論前に判断しなれば筋が通らなくなることを強く主張しました。その後、二審の高等裁判所にだす準備書面を市が新市長

就任前の十月二十八日に提出していたことが明らかにとなり、関連質問を行いました。



議会全員協議会(12/14)

を市が新市長就任前の十月二十八日に提出していたことが明らかにとなり、関連質問を行いました。

## 市民的立場で問題解決を

さらに、壊された階段状市道の現状復旧をどうするのか、また、開発途中になっている残地の土地利用をどうしていくのが問われています。

高野議員は、開発残地について、市として公共的利用も含めて検討するよう求め、市長も、その方向で検討していくことを表明しました。

岡本二丁目マンション問題の解決には、今後、業者との交渉など紆余曲折が予測されますが、何よりも松尾新市長の市民的立場にたった指導力の発揮が求められています。

## 武田薬品工業 研究所建設問題 で陳情を可決

武田薬品工業は、鎌倉市・藤沢市域にまたがる土地に大量の実験動物を焼却処分する炉を含む新研究所を建設中です。



小田嶋敏浩議員

これに対して周辺住民等から公衆衛生上の安全措置を求める陳情書が出され、賛成多数で採択されました。事業者が「動物焼却

炉の立地を規制する法は無い」などと主張しているなか、主な問題点として、住民はバイオ関連施設に対するWHO(世界保健機関)指針を踏まえ、公衆衛生の観点から説明責任を求めています。極めて不十分であることが挙げられます。さらに、実験動物の死骸が一般ごみと同じ扱いで、焼却炉が住宅密集地に近接して設置されることへの不安に応えていません。党議員団は、住民の安全を守る立場に鎌倉市がしっかり立って、事業者の説明責任を求めるよう賛成しました。

主な議案など党派別賛否	共産党	鎌倉みらい	ネット	民主党	公明党	新まくら民主の会	鎌無会	無所属
	(4人)	(4人)	(4人)	(3人)	(3人)	(2人)	(2人)	(6人)
市民の防犯活動を妨害する行為の根絶並びに安全策構築についての陳情	○	○	○	○	○	○	○	○
市民自主防犯活動に対する支援体制の充実についての陳情	×	×	×	○	×	×	○	△
小学校でフリー教員の加配を求めることについての陳情	○	×	○	○	○	△	○	△
武田薬品工業新研究所の実験動物焼却炉施設にともなう公衆安全措置を求めることについての陳情	○	×	○	○	×	○	○	△
改正貸金業法の早期完全実施等に関する意見書	○	○	○	○	○	○	○	○
障害者自立支援法の応益負担の廃止を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	△

○賛成 ×反対 △一部反対 □一部退席